

キコニアレター

2025.10.1 発行 No.39



羽ばたき練習をするヒナ（祥雲寺巣塔）

コウノトリの野外放鳥 20周年にあたる本年6月に、野外個体数が500羽に達しました。これまで関係された皆様のご努力や思いによって、500羽という節目を迎えることができましたことに、あらためて感謝申し上げます。

繁殖地も日本各地に拡がり、13府県でふ化が確認されました。新しい繁殖地として、兵庫県内では上郡町と新温泉町で、県外では茨城県水戸市、石川県珠洲市・能登町、島根県奥出雲町で繁殖が確認され、さらに拡がりを見せてています。

しかし、未だ多くの課題を抱えています。野外個体群の存続可能性を高めるには、遺伝的多様性の拡大が求められます。そのために、巣立ち前の個体に足環を装着し、野外コウノトリの系譜を把握し続けることが必要です。また、野外コウノトリの増加に対して、主食であった魚類等の回復が遅れていますことも明らかになっています。引き続き、全国各地でコウノトリが生息・繁殖できるだけの餌を保証する環境収容力の向上が必要です。

したがって、今後は、コウノトリとその他の生物相を対



卷頭言



兵庫県立コウノトリの郷公園

園長 上甫木 昭春

KAMIOGI Akiharu

象とし、人間生活や生業との係わりも踏まえた、地域全体での生態系の健全性を高めていく、新たな段階を迎えていけるといえます。すなわち、コウノトリとその他の生物相が共生し得る環境の創造、それを支える環境創造型の生業や環境配慮型の生活スタイルの推進、そして、それらを通じた地域経済の活性化や個性的な地域づくりへと展開していくことが必要です。

コウノトリと共生する地域づくりを先導してきた但馬地域では、全国にそのためのロールモデルを提供していく役割もあると思います。コウノトリの郷公園では、但馬地域や全国の営巣地におけるコウノトリ野生復帰の科学的な成果をさらに蓄積し、地域全体での生態系の健全性を創出すべく貢献していきたいと考えております。

これまで以上に、地域住民や民間企業などをはじめとした関係者との連携を深めて、「コウノトリも住める豊かな環境を創る」ことをスローガンとして進められてきたコウノトリの野生復帰を、次のステージに進めていきたいと考えております。引き続きご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。



コウノトリの個体数 (2025.8.31 時点)

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	26	29	0	55
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	21	19	6	46
計	47	48	6	101

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	18	13	0	31
兵庫県野外巣立ち	94	109	32	235
野生個体（可能性を含む）	1	2	0	3
他府県放鳥	10	5	0	15
他府県野外巣立ち等	127	131	16	274
計	250	260	48	558

放鳥20周年に寄せる思い

兵庫県立コウノトリの郷公園

山 岸 哲

YAMAGISHI Satoshi

(兵庫県立コウノトリの郷公園 名誉園長)



郷公園に私が着任したのは、初放鳥から5年後の2010年のことでした。その頃は野外に生息するコウノトリの数は50羽に満たない状態でした。足掛け10年お世話になり、2019年に退任した時には、その数は200羽に迫り全国に広がり始めていました。

放鳥20周年を迎えた今年は、それが500羽を越え全国60か所以上で繁殖したとお聞きしています。この等比級数的増加には目を見張るものがあります。この快挙を成し遂げられた、郷公園のスタッフ・地域の方々・全国の皆様にお祝いを申し上げるとともに、そのご努力に深甚の敬意を表したいと思います。

ところで、野外に生息する500羽を越えるコウノトリは、そのすべてといつていひほどが「巣塔育ち」です。巣塔は今のところコウノトリの野生化にとっては、なくてはならないものです。しかし、私には不思議でならないことがあります。それは、戦時中にいかに大きなアカマツが伐採されたとはいえ、皆無になったわけではありません。それなのに巣作りはもとより、これまでのところ松の木に止まっているコウノトリさえ見たことがありません。これは一体何故なのでしょう。昔のように松の木に営巣するコウノトリが出現すればコウノトリの保護増殖事業は飛躍的に前進することでしょう。ぜひ郷公園のスタッフの叡智を集結して、「現在のコウノトリが松を利用しない理由」を早急に解明してほしいと願うものです。

コウノトリは生態系の最上位に位置する生き物です。生態系の中で彼らが増えることが、従来の生態系にどのような影響を及ぼすのか、人間生活への影響も含めてこれも明らかにする必要があると思いま

す。さらに、「アンブレラ種を保護することが、生態系全体を保護することだ」という掛け声だけでなく、具体的にどのように保護していくのかも提示することが急務です。

冒頭で述べたように、コウノトリの保護増殖事業は兵庫県だけではなく、全国に及んでいます。それに対処するために IPPM-OWS が設立されたわけですが、これには法的裏付けがなく、各自治体・団体が個別で国に働きかけでも効果は薄いでしょう。「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」のように、広域の自治体が結束することが肝要です。兵庫県や豊岡市など官民でつくる保護団体が1965年に「コウノトリ飼育場」を開設して以来、60年にわたりコウノトリの保護・増殖に取り組んできた郷公園が、全国から多様なアイデアを募り、その先頭に立たれることを心から願ってやみません。



赤松の木に営巣するコウノトリ

汗ふきてこころ寂しも径を埋め
群がりつづ飛ぶ精霊とんぼ

(宮終二)

漫然と見過ごしがちな日々の
風景のなかにあって、ふと次の
季節の気配を感じる瞬間がある。
周囲の生き物のわずかな変化に
秋の訪れを知る。自然豊かなキヤ
ンパスならではの体験だ。

大院

郷公園のビオトープと祥雲寺

地区の水田は2023年、環境

省の自然共生サイトに認定され
た。健全な生態系とは何か。そ

れを維持するために何が必要か。

大学院の課題はいまやコウノ
トリにとどまらず、自然との共生
という大きなテーマに近づきつ
つある。

(望鶴生)

RRM

column No.35

兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科コラム

放鳥 20 年の歩み

1962年（S37）兵庫県が「特別天然記念物コウノトリ」の管理団体に指定される
 1963年（S38）文部省文化財保護委員会（現文化庁）は人工ふ化と人工飼育の方針を決定
 1965年（S40）人工飼育の開始 コウノトリが兵庫県の県鳥に指定される
 1985年（S60）ロシアのハバロフスクから幼鳥6羽を受贈し、飼育場で飼育を始める
 1989年（H1）人工繁殖に成功。25年目にして人工飼育下での繁殖に成功し、ヒナが誕生
 1999年（H11）兵庫県立コウノトリの郷公園開園
 2002年（H14）飼育コウノトリが100羽を超える
 2004年（H16）野生復帰に向けた馴化訓練（飛行・採餌）が始まる
 2005年（H17）コウノトリの放鳥開始
 2007年（H19）43年ぶりに国内の野外でのヒナ誕生（豊岡市百合地区の人工巣塔）
 2011年（H23）兵庫県とコウノトリの郷公園が、「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」を策定
 2013年（H25）国内個体群管理に関する連携組織として「コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（通称：IPPM-OWS）」立ち上げ
 2017年（H29）野外コウノトリが100羽到達
 2019年（H31）「コウノトリ保護増殖センター第1フライングケージ（通称：約束のケージ）」が国登録有形文化財に登録される
 2020年（R2）野外コウノトリが200羽到達
 2022年（R4）野外コウノトリが300羽到達
 2024年（R6）コウノトリの郷公園開園25周年 野外コウノトリが400羽到達
 2025年（R7）放鳥開始から20年 野外コウノトリが500羽到達



人工飼育下で誕生したヒナ



放鳥式典（2005年9月24日）



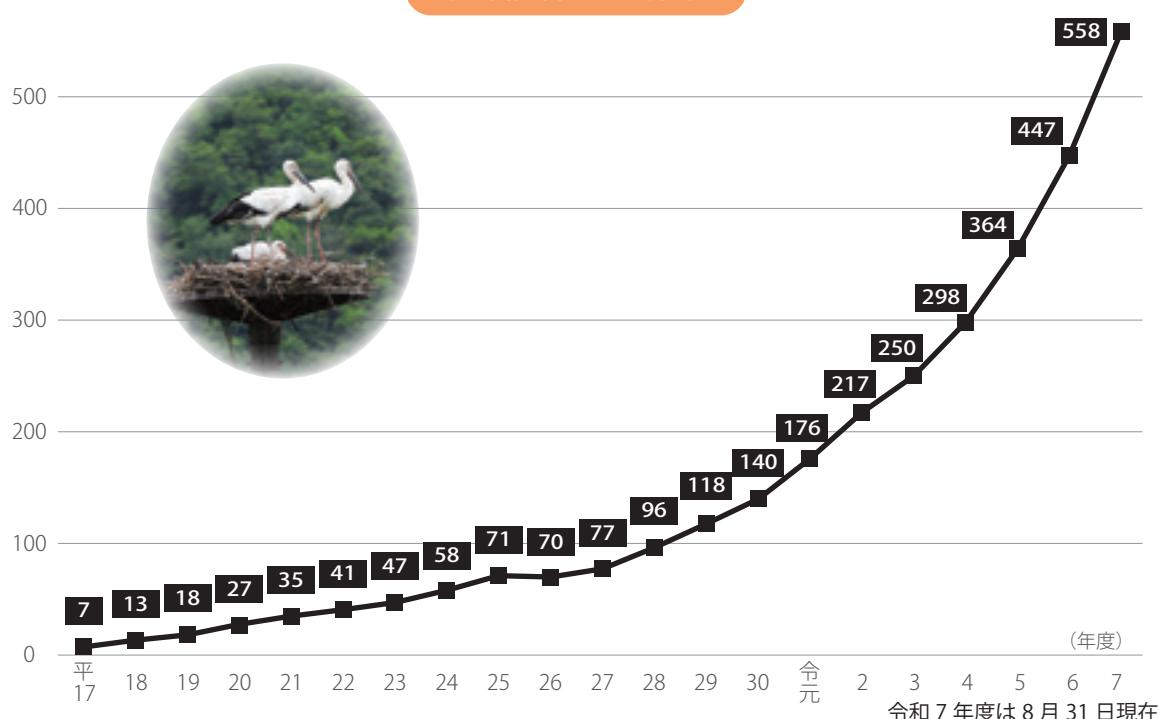
トラクターの後ろで採餌する野外コウノトリ

放鳥・野外繁殖等による野外個体数

区分	年度	平	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令	元	2	3	4	5	6	7
		野外個体数	7	13	18	27	35	41	47	58	71	70	77	96	118	140	176	217	250	298	364	447	558	
異動状況	放鳥	ハード	5	3	3				1			2	2	2	5	4		2	2	2		-		
	增加	ソフト	2	6	2	2	2	2		4	2	6	6	5	5	2	1	2	1	2		-		
	野外繁殖				1	8	9	9	9	14	17	16	13	12	28	24	46	56	56	80	96	134	-	
	救護ヒナ解放									5				4		1	1	5		9	2	-		
	その他													1		1			2	1	-			
	回収・収容			2	1				1	1		3	1		1	1	4	-1		6		7	-	
	減少			1			1	3	1	1		1		1	3	1	1		3	2	3		-	
増 減		7	6	5	9	8	6	6	6	11	13	-1	7	19	22	22	36	41	33	48	66	83	111	

（個体数） 600

野外個体数の推移





㉑ 八頭町

令和2年に初めて町内で繁殖が確認されたことをきっかけとして、人工巣塔を設置しました。以降は毎年繁殖が確認されており、今年は町内2カ所の繁殖地から6羽の巣立ちを見守ったほか、これまでに計18羽が町内から巣立っています。



㉒ 豊岡市

この20年でコウノトリの生息地は広がり、羽数も大きく増えました。コウノトリは自然の中で、力強く生きていることを実感するとともに、コウノトリの野生復帰という夢を実現するため、長年に渡る多くの方々の努力や、地域の方々の理解や支援により成し遂げられたことです。豊岡市は、これからも「コウノトリも住めるまちづくり」を目指し、挑戦し続けます。



㉓ 北栄町

親しみをもって末永く見守っていただけるよう、地域の皆様からコウノトリの雛の愛称募集をするなど、北栄町全体で一緒に愛着をもって見守れるような取組をしています。



㉔ 養父市

平成24年度に八鹿町伊佐地区に放鳥拠点を設け、令和5年度まで人工飼育・放鳥を行ってきました。この間18羽が養父市から巣立ち、野生復帰に貢献しました。令和6年度からは営巣用人工巣塔を設置する補助事業に取組み、野生個体の市内定着を目指しています。



㉕ 大山町

令和7年にも飛来があり、コウノトリは地域の方々に親しまれ繁殖も見守られています。放鳥と繁殖の継続を祝い、これからも全国に元気が広がることを祈念いたします。



㉖ 朝来市

市のコウノトリ育む農法による水稻の無農薬・減農薬栽培は、令和6年度末時点ですで78.4haまで拡大しています。今後も環境創造型農法の推進や、コウノトリ保全に係る普及啓発等を通じ「人と自然が共生する」まちづくりを進めて参ります。



㉗ 雲南市

コウノトリがよくエサをとる水田での生き物調査、生き物を増やすための「よけじ」づくり、地域の人たちによる耕作放棄地を活用したビオトープ整備等の取組を行っており、市内のたくさんの人たちが、コウノトリと共生するまちづくりに取り組んでいます。



㉘ 上郡町

保護・研究・啓発を続けて、放鳥20周年を迎え、野外コウノトリが500羽を超えるという地道な活動を継続されたコウノトリの郷公園のみなさまの功労を讃えます。また、その節目の年に合わせるように本町でも3羽のヒナが誕生しました。これからもコウノトリに選ばれる環境の維持に努めています。



㉙ 世羅町

コウノトリ放鳥20周年、誠におめでとうございます。貴公園には、当町でもコウノトリが子育てをするにあたり、懇切丁寧な御指導・御助言をいたしております。賛明にして懸命な活動に対しまして敬意を申し上げます。今後も、「コウノトリも住める豊かな環境づくり」をスローガンに、地域住民とともに未来へ繋げていきたいと考えています。更なるご活躍ご発展をお祈り申し上げます。



㉚ 徳島県

平成27年のコウノトリ飛来以降、繁殖のための巣場所の確保、マナー対策等を行い、平成28年以降は、繁殖ペアのヒナに9年連続で足環装着を実施してきました。また、負傷個体のための一時保護施設を設置するなどコウノトリの保護に取り組んでいます。



㉛ 稲美町

令和5年に町内で初めて国岡人工巣塔での巣が確認されました。その後ヒナ3羽が誕生して巣立ちました。これを受け親鳥の愛称募集と命名を行いました。令和6年も同巣塔でヒナ1羽が誕生し、町は足環装着費用を負担しました。さらに令和7年も同様に巣築し、本年誕生したヒナ4羽のうち、3羽が巣立ちました(足環装着費用を負担)。死亡個体については、町が回収し県立コウノトリの郷公園へ搬送しました。



㉜ まんのう町

コウノトリ放鳥20周年、誠におめでとうございます。貴公園の懸命な活動が実を結び、まんのう町でもコウノトリが子育てをする姿を見ることができます、大変喜ばしく思います。今後も、コウノトリと人が共生できる豊かな環境を、地域住民とともに守り、未来へ繋げていきたいと考えています。



㉝ 淡路市

令和3年にコウノトリが飛来し、5年連続で巣（子育て）しています。継続的な巣場所のための人工巣塔設置やコウノトリの剥製展示及び野外活動等の環境学習を通じて、生息環境の保全再活動や野生復帰への関心を高める活用に取り組んでいます。



㉞ 白石町

令和4年九州初の巣築、翌年の初の巣立ちなど、今まで九州唯一の繁殖地です。地域住民や農家のみなさん、保護団体と連携しながら、造巣から産卵、巣立ちに至るまでコウノトリの野生復帰への支援を行っています。



㉟ 鳥取市

鳥取市には、水鳥の生活には適した環境が豊かに残されています。コウノトリの姿が、普通の水鳥として風景に溶け込むような日のやつくることを望んでいます。



⑨ 越前町

この度はコウノトリ放鳥開始から20年を迎えて、おめでとうございます。越前町も取り組みを始めて約2年が経ちました。町内にもペアが飛来するようになり、雛がこれまでに3羽産まれました。野外コウノトリが500羽に到達したということで、越前町もコウノトリの繁殖に貢献することができ光栄です。



① 神栖市

波崎愛鳥会と連携し、コウノトリの見守りやヒナへの足環装着を令和5年度から3年連続で実施しています。また、令和6年度には株式会社クラレからの企業版ふるさと納税を活用し人工巣塔を設置しました。



⑩ 鮫江市

放鳥20周年おめでとうございます。一度は国内絶滅した生き物の個体数をここまで回復させるのには、並々ならぬ苦労があったことと思われます。当市も、コウノトリを始めとした野生生物が暮らす豊かな自然環境を守るために、微力ながら事業を推進してまいります。



② 行方市

放鳥20周年および野外コウノトリ500羽達成おめでとうございます。コウノトリがいつの日か足環を必要とせず、日常当たり前の存在になることを目指して、繁殖地のひとつである市として、人とコウノトリが共生できる環境づくりに取り組んでまいります。



⑪ 越前市

コウノトリをシンボルに、人と生きものが共生するまちづくりを目指し、有機農業を推進しています。全国初の「オーガニック都市宣言」を行い、生産から加工、消費、廃棄までを市内で完結・循環させることを目指しています。



③ 小山市

2012年にラムサール条約湿地として登録された「渡良瀬遊水地」の保全や賛美な利用を多様な主体と共に進めてきました。取組みが奏功し、2020年に、東日本初となるコウノトリの野外繁殖が実現しました。以降、6年連続で計14羽のヒナが巣立っています。

撮影:小倉 明氏



⑫ 小浜市

「人もコウノトリも豊かに住み続けられるまち」を目標に掲げ、水田、水路などのつながりの回復に向けた自然環境の創出、減農薬・有機栽培の生産拡大による環境にやさしい農業の推進、子どもたちへの環境学習を通じた人づくりなどを連携して進めています。



④ 野田市

平成24年に多摩動物公園から2羽のコウノトリを譲り受け飼育を開始しました。その後、平成27年から令和5年まで9年連続で合計17羽を放鳥し、放鳥から10年目の令和6年には野田市放鳥のオスと渡良瀬遊水地生まれのメスがペアとなり市内初の野外繁殖に成功しました。



⑬ 京丹後市

長きにわたりコウノトリの保護活動をされていことに敬意を表します。毎年、着実にコウノトリの数が増えていることを喜ばしく思っています。コウノトリが希少動物でなくなり、自然の中で自由に飛び交う日を、心より願っています。



⑤ 上越市

放鳥20周年、誠におめでとうございます。これまでコウノトリの繁殖に関わってこられた関係者の皆様のご努力に深く敬意を表しますとともに、この20周年が、次の30年、100年と未来へ羽ばたく一歩となりますよう祈念申し上げます。殖に成功しました。



⑭ 綾部市

2020年(令和2年)に市内でコウノトリのヒナが初めて誕生して以来、毎年、ヒナが産まれています。本市では足環装着などの希少生物の実態調査に協力するとともに、コウノトリの繁殖活動を支援しています。



⑦ 津幡町

定住しているペアを「名誉鳥民」として顕彰しました。また巣塔近くにカメラを設置して育雛期の様子を24時間配信するとともに、コウノトリを紹介する番組の作成およびケーブルテレビでの放映も予定しています。



⑧ 福井県

今年は、本県での放鳥から10周年の節目の年となります。令和元年以降、放鳥個体をはじめ県内5市町の24ペアから合計64羽のヒナが巣立っています。地域個体群の安定的な維持に向けた保全に取り組みます。

INFORMATION

ふるさとひょうご寄附金でコウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください。

「ふるさとひょうご寄附金でコウノトリ野生復帰プロジェクト」を応援してください。

当園では全国の皆さまのご協力をいただきながら、コウノトリの保護・増殖と野生復帰に取り組んでまいりました。多くの方々のご支援により、今年6月末時点での野外に生息する個体数が500羽に達したことが確認されました。

近年では、飛来地や繁殖地が全国的に広がっており、当園による技術的支援の必要性がますます高まっています。また、野外個体の増加に伴い、救護が必要な個体の増加や近親婚の発生といった新たな課題にも対応していく必要があります。さらに、遺伝的多様性を確保するためには、国内外の施設との一層の連携が重要となっています。これらの取組を着実に進めいくためにも、本プロジェクトへのご賛同とご支援を心よりお願い申し上げます。本プロジェクトの詳細については、郷公園ホームページ及び「兵庫県のふるさと納税『ふるさとひょうご寄附金』」のページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



里親飼育したコウノトリの放鳥(朝来市)



ふるさとひょうご
寄附金からの申込み



兵庫県ふるさと納税
ポータルサイトからの申込み



または

寄附金申出書
による申込み



※申し込みの最終に、皆様からの寄附金を活用させていただくコース・プロジェクトを選択(記入・入力)していただきます。その際に「寄附金の活用コース1~17」→「16県立美術館・博物館等応援コース」→「コウノトリ野生復帰プロジェクト」または「コウノトリの郷公園」とご入力(ご記入)ください。



- ①広報誌「キコニアレター」の送付
- ②寄附者向け特別イベントのご案内
- ③郷公園オリジナルグッズの進呈(対象: 兵庫県外在住)
- ④飼育コウノトリの愛称命名権(2年間)



- 1万円未満… 特典①
- 1万円以上… 特典①②③
- 10万円以上… 特典①②③④

◎ご報告とお礼

令和6年度は、**22件、合計327,985円**のご寄附をいただきました。(令和7年3月31日時点)
引き続き兵庫県立コウノトリの郷公園では、プロジェクトに賛同いただき、ご支援いただける方を募っています。

イベント案内

放鳥20周年記念特別企画

①「座談会」令和7年10月18日(土)

コウノトリ放鳥20周年を迎え、「コウノトリと共に歩んだ20年～次の20年に向けて～」をテーマにした座談会を開催します。

②「郷公園デー～非公開エリア特別公開～」令和7年10月19日(日)

非公開エリアの特別公開のほか「郷公園クイズラリー」や「特別企画展」「体験コーナー」などがあり、大人も子どもも楽しめます。



③「パネル展」令和7年11月1日(土)～30日(日)

全国の繁殖地の取組やメッセージ、コウノトリの写真などを展示します。

「世界湿地の日」パネル展

令和8年1月24日(土)～2月15日(日)

「世界湿地の日」(2月2日)に合わせて、湿地とコウノトリの繋がりについて展示します。

今後は…

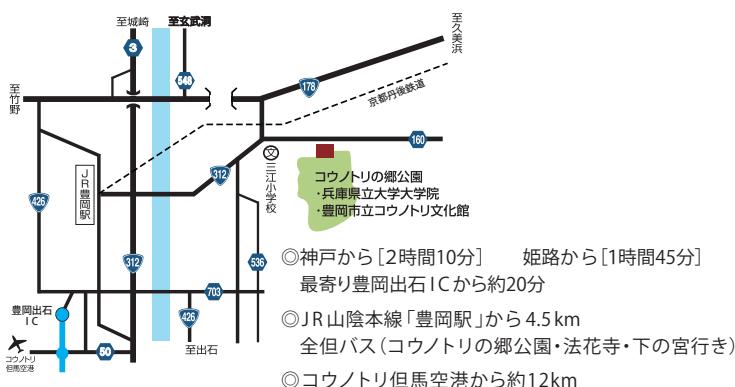
- ・クリスマスイベント
- ・年末年始のイルミネーション
- ・新春缶バッジ配布なども実施予定です♪



*イベントの日程や内容は予定であり変更することがあります。

詳しくは、事前に郷公園ホームページやSNS等でお知らせしますのでご確認ください。

ACCESS!



編集後記

まるでコウノトリたちの粋な計らいかのように、放鳥から20年という節目の年に、「野外コウノトリ500羽到達」の朗報をお伝えすることができました。かつて日本各地の空を悠然と舞っていたコウノトリとの共生の風景は、確かな歩みとともに蘇りつつあります。酷暑に耐え、命を紡ぐ営みに向き合うひたむきなその姿に心を打たれると同時に、自然の中で生きるために強さを私たちに教えてくれているようです。自然と調和する社会を目指し、時代に即した新たな共生のかたちが全国へ、そして世界へと広がっていくことを願っています。

(社会教育推進専門員 岡田厚志)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間: 9:00 ~ 17:00

休園日: 毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日)

12月28日～1月4日

e-mail:kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ: <https://satokouen.jp/>

facebookページ: <https://www.facebook.com/satokouen/>

Instagram: https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/

